



## 少年消防クラブについて



少年消防クラブは、昭和の時代に「知識欲にあふれる小・中学生のころから、防火の知識を身に付けておくことが理想である」との考えから組織化が進められ、10歳以上15歳以下の少年少女により編成され、身近な生活の中から火災・災害を予防する方法等を学ぶことを目的に活動しています。

千歳市においては、昭和53年10月11日、市内各町内会単位で少年消防クラブが続々と設立され、クラブの育成と連絡を図るとともに意欲促進のためにも総括する必要があることから、千歳市少年消防クラブ育成連絡協議会が設立されました。

近年の活動内容は、全体行事として①防火・防災の知識を専門家から学ぶ「体験学習」、②千歳市総合防災訓練を見学し、消防のほかにも防火・防災に係る様々な特殊車両や特殊機材を見たり触れたりできる「防災訓練見学ツアー」、③各



体験学習（令和元年度）



防災訓練見学ツアー（令和元年度）



スポーツ大会（令和元年度）

クラブ間の親睦を図る「スポーツ大会」、④各クラブの地域を回り火の用心を訴える「防火夜回り」、⑤書道を通じて、火災予防の認識を深めることを目的とした「火災予防席書大会」、そして、⑥出初式に出席して市長から敢闘章が授与される「消防出初式」と年間6回程度の活動を行っています。また、全体行事のほかにも各クラブ独自に計画された活動を行っており、現在は市内10クラブが活動しています。



消防出初式（令和元年度）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界規模で感染拡大し、北海道においても4月に緊急事態宣言が発出され、年が明けた令和3年になっても解除されない都府県があるなど、この感染症が猛威を振るっている状況であり、令和2年度に予定していた全体行事のほとんどが感染症拡大防止の観点から中止を余儀なくされ、少年消防クラブ本来の目的である活動を通じて子供たちに防火・防災に係る知識、技術の育成が十分にできていないのが現状です。



火災予防席書大会（令和元年度）

しかしながら、地域の防火・防災意識の高揚を図るうえで、少年消防クラブの育成強化を図ることが重要であり、また、災害に強いまち「千歳市」につながっていくことから、今後も少年消防クラブの活動を継続していくため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底しながら、新しい生活様式にあった行事を実施していきます。

# 優良な少年消防クラブの受賞 (稲穂少年少女消防クラブ)

令和元年度優良少年消防クラブ・指導者表彰（フレンドシップ）について、本市の稲穂少年少女消防クラブが「優良な少年消防クラブ（消防庁長官賞）」を受賞しました。

この表彰は、少年消防クラブ員や指導者の意識高揚とクラブ活動の活性化を図り、少年消防クラブの育成発展に寄与することを目的として、総務省消防庁が昭和29年度より継続して実施しているもので、令和元年度を受賞クラブ及び指導者は次のとおりとなっております。

- ・特に優良な少年消防クラブ（総務大臣賞） 28クラブ
- ・優良な少年消防クラブ指導者（総務大臣賞） 14名
- ・優良な少年消防クラブ（消防庁長官賞） 40クラブ

今回、「優良な少年消防クラブ（消防庁長官賞）」を受賞した全国40クラブのうち、北海道では稲穂少年少女消防クラブを含む4クラブが選ばれました。

稲穂少年少女消防クラブの受賞理由としては、過去3年間に事務局が主催する行事に積極的に参加され、また、クラブ内活動も指導者を中心にクラブ員が精力的に活動されたことが挙げられます。



本来であれば、令和2年3月に東京で表彰式典を実施する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったことから、令和2年8月17日（月）に千歳市消防総合庁舎2階消防長室にて伝達式を執り行いました。

伝達式終了後は、報道機関の取材や写真撮影を行い、稲穂少年少女消防クラブ内山代表（稲穂町内会長）は「防火活動の幅が広がった」と目を細めていました。

また、この知らせは、令和2年10月に発刊した「広報ちとせ」にも取り上げられ、稲穂少年少女消防クラブの伝統について、指導者である門馬さん、山崎さんのインタビューの内容が掲載されました。



41年ぶりの快挙  
消防庁長官賞を受賞した  
《稲穂少年少女消防クラブ》の伝説

## 窓

大変なときも  
続けることが大切

「稲穂少年少女消防クラブ」の皆さん  
写真上から稲穂町の内山 祐次氏、山崎 誠  
消防長、木下から会長の門馬 幸次氏、  
副会長、

「稲穂少年少女消防クラブ」の皆さんは、41年ぶりに消防庁長官賞を受賞しました。これは、令和元年度に表彰された全国40クラブのうち、北海道では稲穂少年少女消防クラブを含む4クラブが選ばれました。稲穂少年少女消防クラブの受賞理由としては、過去3年間に事務局が主催する行事に積極的に参加され、また、クラブ内活動も指導者を中心にクラブ員が精力的に活動されたことが挙げられます。

稲穂少年少女消防クラブは、令和元年度に表彰された全国40クラブのうち、北海道では稲穂少年少女消防クラブを含む4クラブが選ばれました。稲穂少年少女消防クラブの受賞理由としては、過去3年間に事務局が主催する行事に積極的に参加され、また、クラブ内活動も指導者を中心にクラブ員が精力的に活動されたことが挙げられます。

稲穂少年少女消防クラブの皆さんは、41年ぶりに消防庁長官賞を受賞しました。これは、令和元年度に表彰された全国40クラブのうち、北海道では稲穂少年少女消防クラブを含む4クラブが選ばれました。稲穂少年少女消防クラブの受賞理由としては、過去3年間に事務局が主催する行事に積極的に参加され、また、クラブ内活動も指導者を中心にクラブ員が精力的に活動されたことが挙げられます。



# 各クラブの活動



新型コロナウイルス感染症の影響で、事務局主催の令和2年度事業はすべて中止となりましたが、各クラブは感染症対策を十分に行い、防火活動を実施しました。

## 支笏湖少年消防クラブ 「七夕提灯行列」

支笏湖少年消防クラブでは8月7日（金）の七夕の日に、地域の防火活動として、七夕提灯行列を実施しました。提灯を片手に支笏湖温泉街を練り歩き、火災予防を呼びかけるとともに、火災ゼロを願いながら七夕の夜を彩りました。



寿少年少女消防クラブでは12月26日（土）に、地域の防火活動として、防火夜回りを実施しました。「カーン、カーン」と住宅街に拍子木が鳴り響き、続いて「火の用心、マッチ一本、火事の元」と子供たちの声がこだまし、火災予防を呼びかけました。

## 寿少年少女消防クラブ 「防火夜回り」



## 消防車を新しく導入しました

千歳市消防では新たにCAFS（キャフス）を搭載した消防車を更新整備しました。

CAFS（キャフス）とは、Compressed Air Foam System の頭文字をとっており、圧縮空気泡消火装置という意味で、この消防車の中には、水と消火薬剤を高圧の空気で混ぜて泡を作る装置が組み込まれています。

CAFS（キャフス）に使用される消火薬剤は、住宅火災のほかプラスチックやゴム製品などが燃え、水だけでは消しにくい火災にも大変有効なものです。また、このCAFS（キャフス）を使用することにより放水量を大きく減らすことができるため、消火活動の水による損害防止につながるほか、圧縮空気泡の状態ではホースに送るため、ホースの重量が水だけのときよりも軽く、取り扱いが容易になり消火活動をより効果的に実施することが可能になります。





## 千歳市消防本部からのお知らせ



# 住宅防火 いのちを守る 7つのポイント

住宅から火災を出さないために、次の「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」を家庭で実践しましょう。

### ▶ 3つの習慣

#### 1. 寝たばこは絶対にやめる

- ・たばこを吸う場所は決めておきましょう。
- ・吸殻は必ず火が消えたことを確認し、専用の殻入れに捨てましょう。



#### 2. ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する

- ・ストーブの上で洗濯物を乾かすのはやめましょう。
- ・移動式のストーブを給油するときは火を消しましょう。
- ・冬季に暖房を使う前は必ず点検・整備をしましょう。



#### 3. ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

- ・コンロのまわりに燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- ・天ぷら油火災防止装置のついた安全な調理器具を使いましょう。



### ▶ 4つの対策

#### 1. 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する

- ・寝室や階段、台所に火災警報器を設置し、半年に1度は点検しましょう。



#### 2. 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災製品を使用する

- ・料理をするときは、防災性能のあるエプロンなどを使いましょう。



#### 3. 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する

- ・万が一のために、住宅用消火器等を持ち出しやすい場所に設置しましょう。



#### 4. お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる

- ・町内会などで行っている防災訓練などに積極的に参加しましょう。

